

平成 27 年度 千葉市教育研究 美術科学習指導案

日 時：平成 27 年 10 月 20 日（火）
第 5 校時

場 所：美術室

展開学級：2 年 4 組

授 業 者：寺石 純子

- 1 題材名 「ビックリプレート」～発砲ポリスチレンフォームの可能性～
(デザイン・工芸領域)

- 2 題材観

魅力ある題材は、生徒の興味や関心を高め積極的に制作に取り組む大きな要因となる。本題材は 2 学年で実施し、材料にスタイロフォームという押出法発泡ポリスチレンフォームの断熱材・保温材を使用する。これは、一般的に断熱材として建物の断熱材料として使われているが、比較的安価で非常に軽く、熱による変形や着彩もできる材料である。スチロールカッターやカッターナイフで切断でき、スチロール糊で接着もできる。実際に商業施設やテーマパーク、舞台美術等では広く装飾の材料として使われている。

前述の性質を利用しながら、本題材では家に飾ることのできるメッセージプレートづくりに取り組ませたいと思う。鉄製の重厚感を感じさせるような着彩を施した参考作品を最初に手に取った時に抱くであろう意外性や、熱による凹凸をつくる制作段階の不思議さをきっかけに、生徒の発想や構想を引き出し、作品制作に主体的に関わらせたい。

メッセージプレートは表札、部屋のドアプレートなどその用途によって文字の組み合わせや装飾はさまざまに考えられる。また、表示の用途に限らず、自分を励ます言葉をメッセージプレートとして側に置いておけるような作品にすることで、より愛着を持ち得るという可能性も広がる。メッセージプレートは、剥がせる両面テープで簡単に装着できるため、飾る場所に制限が少ない。紐を付けて壁掛け式にしたり、プレート同士を接着して、置き型にもできる。場所と適したメッセージを考えながら各自で工夫し、完成後は自宅に飾ることで、生活の中に美術を生かすことを目指したい。

1 学年時、平面構成の授業で配色を既習したことを踏まえ、本題材では色による重厚感や質感の表現を深めさせたい。さらに本題材により、文字やその配置と構成した経験を生かし、3 学年での篆刻の印面と持ち手の立体デザインの発想へとつなげたい。

3 指導観

新しい題材に高い興味をもつ生徒が多いことを生かして、参考作品を手にしたとき、「どうやってつくるの?」「不思議」そんな素直で素朴な驚き聞こえるような授業の導入を行いたい。そのためには参考作品の試作と提示方法を工夫したいと思う。

そして構想を練るときは、家と生活に関する資料を活用できるようにすることで、ネームプレートのメッセージと装飾のイメージを構想させたい。その際は、制作カードに言葉やアイデアスケッチを描きながら考えさせることでイメージを明確にさせる。制作の途中には、グループ活動での交流の場を設け、多様な見方や考え方をすることで、自分の構想や作品を客観的に見直し、仲間の共感が得られるような表現の工夫を重ねさせる。作品完成後は、自分の表現意図を説明させ、仲間の作品の表現の工夫や良さを感得させたい。

制作途中での修正や変更、付け加えが比較的容易であることを体感させ、納得できるまで作品をより良くする工夫を重ねさせ、完成後は達成感を味わわせたいと考える。

4 題材の目標と評価基準

美術への関心・意欲・態度	発想と構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
ネームプレートの機能やデザインに関心をもち、意欲的に制作をしようとしている。	見る人の立場に立って、ネームプレートの目的、材料の持つ特性や造形的な美しさなどを総合的に発想し、構想を練っている。	色彩や形などを工夫し、道具を効果的に使用して自分の表現意図を効果的に表している。	作品に込めた作者の心情や意図、表現の工夫やよさを感じ取ったり味わっている。

5 指導計画（7時間）

- ・参考作品に触れて制作の目標と手順を知り、作品を飾る場所と内容を考える。（1時間）
- ・題材に慣れるため練習作品を作成後、作品のアイデアスケッチをする。（1時間）
- ・表現したい「メッセージプレート」を決定し、下描きをする。（1時間）
- ・スタイロフォームを必要に応じスチロールカッターで裁断する。
文字や装飾部分に洗濯のりを塗布し、電熱器で熱を与える。（1時間）
- ・**全体を着彩する。（1時間・本時）**
- ・文字や装飾部分を着彩する。（1時間）
- ・作品を鑑賞し合い、友達の作品の表現の工夫や良さを認め合う。（1時間）

6 本時の指導（5／7）

①本時の目標

- 題材に関心を寄せ、積極的に学習に取り組もうとしている。（美術への関心・意欲・態度）
- 目標や手順を理解し、表現したい配色で着彩することができる。（創造的技能）

②本時の展開

過程	時配	学習活動	教師の指導と支援◆ 評価○	準備
導入	10	<ul style="list-style-type: none"> ・制作の手順を知る。 ・異素材や多彩な表現例の参考映像により、色によるイメージの違いを知る。 ・作品を使う人や見る人の気持ちや飾る場所との調和を考えながら、作品の配色計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆制作の手順を理解しやすくなるような資料を提示する。 ・素材や表現方法の異なる作品例を映像で見せ、使う人や見る人が抱く印象や飾る場所との調和から作品自体のイメージを考えさせる。 ・全体の着彩→乾燥→凸部分の着彩の流れを理解させる。 ◆材料の特徴を確認させる。 ・丁寧に取り扱わせる。 ◆わからないことは質問し易い雰囲気づくりをする。 <p>○題材に関心を寄せ、積極的に学習に取り組もうとしている。(美術への関心・意欲・態度) ←観察</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・参考作品 ・制作カード ・映像資料 ・PC / TV
展開	33	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> 自分の表したいイメージで、ビックリプレートを着彩しよう </div> <ul style="list-style-type: none"> ・配色が決定したら、着彩する色を準備する。 ・自分の机に新聞を敷き、着彩する。 ・ドライヤーで乾かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆制作用具の使い方を説明する。 ・混色方法、絵の具の量、ムラなく裏以外全て塗ること、様々な角度から確認することを注意させる。 ・ドライヤーは冷風を使用させる。 ◆進度の遅れている生徒に適宜支援する。 ◆つまづいている生徒へ個人指導する。 <p>○手順を理解し、見通しを持って制作を進めることができる。(創造的技能) ←行動観察・作品</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆安全且つ効率的に制作を進められるように、時間配分や声かけに気を配る。 ◆順調に進んでいる生徒の作品を紹介し、意欲の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・配色カード ・イベントカラー ・筆 ・混色皿 ・筆洗 ・新聞紙 ・雑巾 ・混色見本

			○題材に関心を寄せ、積極的に学習に取り組んでいる。(美術への関心・意欲・態度) ←行動観察・机間指導	
ま と め	7	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動を振り返り、制作カードに自己評価を記入する。 ・後片付け ・次時の予定を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆進行状況を挙手や相互鑑賞により振り返らせる。 ○本時の学習目標が達成できた。または、次時の目標をもつことができた。(美術への関心・意欲・態度)(創造的技能) ←挙手・発表・制作カード ◆次時の予定を知らせ、意欲につなげる。 	・制作カード

③本時の評価

- 題材に関心を寄せ、積極的に学習に取り組もうとしていたか。(美術への関心・意欲・態度)
- 目標や手順を理解し、表現したい配色で着彩することができたか。(創造的技能)